

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月23日

【評価実施概要】

事業所番号	3671300592
法人名	社会福祉法人 愛心会
事業所名	グループホーム 高砂
所在地	徳島県阿南市那賀川町芳崎366-1 (電話) 0884-42-1000

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成20年 3月 19日

【情報提供票より】(平成20年1月23日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 1月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	17 人 常勤 15人, 非常勤 2人, 常勤換算 吉野川 7人, 那賀川 8.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2 階建ての 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	光熱費6,000円	
敷 金	有(円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(1月23日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	7 名	要介護2	5 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.5 歳	最低	70 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	徳島ロイヤル病院
---------	----------

徳島県 グループホーム高砂 1

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は農家の点在する静かな田園の中にある。2つのユニットはそれぞれ「吉野川」、「那賀川」と名付けられている。食堂兼居間は天井が高く開放感がある。2階テラスは南側にあり、日当たりと展望が良く、日向ぼっこや散歩、鉢植えの草花への水やりが楽しめる。職員は利用者一人ひとりを大切に思い、楽しく暮らせるよう共に支え合っている。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	「買い物など地域資源を活用した介護計画の作成」、「会議内容が、参加していない職員にも伝わる仕組みづくり」、「栄養バランスについての専門的な助言」、「職員の習熟度に応じた研修受講」、「ヒヤリハットを活かした取り組み」、「地域との交流」は改善されている。「利用案内文等への理念の明示」、「薬剤や刃物等の管理方法の明文化」、「運営推進会議の定期的な開催」は改善されていない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、管理者が全職員と話し合い作成している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、平成19年度は3回開催され、家族代表、地域包括支援センター職員、認知症介護の有識者、職員によって構成されている。内容は、利用者の生活状況や研修内容を報告し、非常災害時の対応方法などについて意見交換している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見箱を設置したり、家族の来訪時などに声をかけるなど気軽に意見等と言ってもらえるよう努力している。要望などは担当者を決め、全職員で話し合い、運営に反映させている。また、重要事項説明書には公的機関の窓口を記載し、利用者や家族に説明している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し神社の草取りに参加したり、散歩の時に挨拶を交わしたりする等、地域の人との交流を深めている。

社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「尊厳、安全、地域密着」の三本柱を立て、地域密着型サービスとしての役割にそった事業所独自の理念を作成している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	申し送り時などに全職員で確認し、理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し神社の草取りに参加したり、散歩の時に挨拶を交わしたりする等、地域の人との交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は、全職員の意見を聞いて自己評価を作成している。前回評価での課題についても意見を出し合い、改善に向けた取り組みを行っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、家族代表、地域包括支援センター職員、認知症介護の有識者、職員によって構成されている。内容は、利用者の生活状況や研修内容を報告し、非常時や災害時の対応方法などについて意見交換している。平成19年度は3回開催されている。	○	運営推進会議は、2ヶ月に1回、定期的開催されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月に1回、行政窓口を訪問し運営状況の報告や相談を行っている。また、年に1回市町村担当者が事業所を来訪し、意見交換している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	行事の写真などを掲載した「高砂便り」を毎月発行している。また、来訪時や電話などでも随時報告を行っている。金銭管理の記録は、家族に報告し確認された記録がある。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり、家族の来訪時などに声をかけるなど気軽に意見等を言ってもらえるよう努力している。要望などは担当者を決め、全職員で話し合い、運営に反映させている。また、重要事項説明書には公的機関の窓口を記載し、利用者や家族に説明している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間での異動はあるが、必要最小限に抑えている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外、法人内、事業所内の研修に参加している。また、内容は全員で共有されたことがわかる記録が残っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の同業者と相互訪問や合同研修会を通じて意見交換したり、グループホーム協会に加入して情報収集するなどケアの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に職員が家庭を訪問したり、見学してもらったりして納得のうえ入居できるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理やカーテンの開閉の役割等を分担したり、昔のことを教えてもらったり、趣味の俳句を活かして先生になってもらうなど相互に支え合いながら生活している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中での会話や行動などから一人ひとりの思いを把握し、行事への参加などは強制せず、本人本意に生活できるよう支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月2回、サービス担当者会議を開催し、本人や家族の意向を反映した計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しや心身の状況に変化があるときには、利用者や家族の要望を聞いて随時見直されている。また、計画は家族に確認してもらいサインをもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制をとっており、また、本人や家族の要望に応じて通院や送迎等を柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週1回、法人の医師の往診がある。家族の希望によっては、かかりつけ医の受診も支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した時や終末期に向けた対応の指針はできているが、職員間での十分な共有ができていない。	○	重度化した時や終末期の方針については、職員や利用者、家族、かかりつけ医等、関係者間で共有することが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員や実習生に対して朝礼などで注意を促し、個人情報の取り扱いに配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	そのつど、利用者の希望を聞いて買い物や散歩などを支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みや力に応じて調理等を分担するなどして食事を楽しめるよう工夫している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できるようになっている。入浴が嫌いな人には、言葉かけのタイミングを工夫したり、また、季節感を出すためにゆず湯を利用したりしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理や洗濯物たたみ、カーテンの開閉などの役割を分担している。また、利用者に俳句の先生になってもらい職員が生徒になるなど、趣味や特技を活かした生活を楽しめるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	行事計画を作成して季節ごとの遠出をしたり、その日の天気により外出や散歩の支援を行ったりしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	2階玄関を出るとすぐに階段があるため、安全対策のため出入口を施錠している。	○	安全に配慮した上で、日中は施錠しないよう工夫することが望まれる。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の災害訓練と年1回の津波を想定した避難訓練を実施している。また、運営推進会議を活用し地域との連携を図るとともにホームが地域の避難場所となっていることから、非常食も用意されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士から献立の栄養バランスについて助言を受けている。また、食事、水分摂取量を把握し、疾病に応じた栄養管理がされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花が食堂や洗面所に生けてあり、雛人形も飾られている。トイレや浴室は清潔であり、建物の天井は高く開放感がある。また日当たりのよい広いテラスがあり、散歩をしたり、日向ぼっこをしたり、水やりができようになっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、思い思いに自分の趣味の小物や写真を飾っている。手作りの収納箱や荷物を置いていて自宅と同じような居室づくりがされている。		